

ぶらりわが街宮沢界隈

(37) 豊かな恵みの湧水から清流をめぐる

宮沢界隈の丘崖下「ハケ」には、諏訪神社などの湧水が有り、豊富な流れは多摩川に向かい東流しています。起点・諏訪神社～中沢堀～昭和用水～残堀川～終点・多摩川までやや長い散策ですが、天気の良い日にぶらりと清流めぐりをいかがですか。

宮沢(村)の地名の起源とされる「諏訪神社」(宮沢町2-35-23)湧水からの流れを追う。

① 清泉が豊富に湧き出て東京都の「東京の名湧57選」に選定されています。*同様に市域では曹洞宗「籠津寺(りゅうしんじ)」(拝島町5-2-37)の南側、ハケ沿いの水路で通称「下の川(したのかわ)」に流れ出る湧水も選定。

② 諏訪神社境内の隣接東に湧水が竹藪の下にあり、50年弱以前にこの地に「マス釣り」池が数年有ったことは、知る方は少ないのでは。今でも湧水は合流。

③ 旧家「伊藤傳彦宅」の黒塀は湧水の流れがよくマッチしています。さらに東に向かい、この良質な湧水で酒造りしていた「田村酒造場」現、田村典子宅邸内に分流しています。さらに奥多摩街道の南から流れは「中沢堀」と呼ばれる。

④ 恵日庵とシルバー人材センター間の先で(中神町2-32)「ワサビ田」鈴木理夫宅部内裏手の湧水と合流。

⑤ 都道59号線(八王子・武蔵村山線)に架かる「和田橋」の北寄り下を東流。

⑥ 福島通りの「中澤橋」を過ぎ、「市立福島会館」(福島町1-19-1)のすぐ北側を東流。

⑦「せきめん」の由来の碑(ひ) 福島会館の駐車場にある。「せきめん」とは江戸時代、水田用水や用水堰(せき)の維持管理のために領主から年貢を免除されていた福島村の水田で、堰免あるいは堰面と書き、平成4年(1992)6月施設を建設するにあたり、歴史的地名を後世に伝えるがために碑を設置。

⑧ 福島会館正門の先は暗渠(あんきょ)で道路になるが、側の南を流れる「昭和用水(*)」=立川堀に合流(郷地2-61)立川市富士見町団地内を東流。

*昭和用水は、旧九ヶ村用水(拝島・田中・大神・宮沢・中神・築地・福島・郷地・柴崎各村)江戸時代の延宝年間(1673~81)福生市との境近くでの多摩川から樋管(といかん)取水。現在は、下流約260mの昭和8年(1933)築造の「昭和堰」から取入、上記各村を至り多摩川に合流する用水。「⑭水辺の散策

ーⅡーホテル舞う用水」に記載。

⑨ 「残堀川」に合流、山中坂下橋と馬場坂下橋の間右岸(富士見町7-3先)

⑩「立日橋」の下流先で多摩川二合流。

(文と写真)防犯宮沢支部 西山 禎一

